

令和2年度 1学期終業式 あいさつ

話の本題の前に、全校のみなさんに連絡が2点あります。

1、18日間の短い休みですが、元気でいてください。そのためには、油断をせず、手洗いをしっかりしてください。具合の悪いときは、無理をせず、医療の判断を仰いでください。

2、篠ノ井高校のHPの「公開資料」の中に、「篠ノ井高校 コンプライアンスマニュアル」があります。これは私たち教職員が、とるべき行動のよりどころとして、共通事項を定めたものです。ぜひ、生徒のみなさんも見てみてください。特に、その中に、「性被害防止・セクハラ根絶のための校内ルール」というものがあります。生徒の皆さんの信頼を裏切らないために、作ったものです。そこには校内や校外の相談窓口も載っています。何か気になることなどあれば、一報をお願いします。

さて、今日みなさんに話したい内容は、誰もがもらえる、ギフトの話です。

ある日本人男性がいました。

彼は、大阪の小さな町工場の息子として生まれました。でも、経営の素質が全くなくて、中学生の時に父さんから「工場は継がんでええ、お前には無理や」と言われ、家業は継げなくなりました。学生時代には、柔道やラグビーに打ち込みましたが、生まれつき骨が弱くて、10回以上の骨折。けがをするたびに行ったお医者さんにあこがれて、整形外科の医者を目指します。

しかし、手先がめちゃめちゃ不器用で、普通なら20分で終わる手術が2時間たっても終わらない。役立たずで、邪魔者扱いで、医者をあきらめて、研究者になろうと決めます。

しかし、研究者になってもなかなかうまくいかず、そのせいで、うつ病になりかけました。そのときちょうどある大学が募った研究テーマのコンテストに挑戦しようとしたのですが、他の応募者は名高い科学者、研究者ばかり。

開き直った彼は、「こうなったら思い切り挑戦的なテーマでやろう」と決め、「受精卵を使わないで万能細胞を作る」ことにしました。

彼の名前は、山中伸弥。ノーベル賞を受賞した人です。

彼は、経営の才能がなかった。骨が弱くて骨折しやすかった。手先が不器用で手術が下手だった。研究者を目指したが、うつ病になりかけた。ここまでは考えようによってはひどい人生ですよ。

でも、経営の才能がなかったから、家を継がなくてすんだ。

骨折しやすかったから、医学への関心が芽生えた。

手術が下手だったから、研究者になる決心がついた。

研究者として最初全然うまくいかなかったから、誰も手を出さない思い切った研究テーマに挑戦できた。

そして、その結果が、ノーベル賞。

よく考えると、「経営の才能がなかったこと」「骨折しやすかったこと」「手術が下手だったこと」「研究者として挫折しかけたこと」、これらは全部、山中さんにとって、『神様からのギフト』でした。

山中さんに限らず、誰の人生においても、これと似たようなことが多かれ少なかれ起こっています。

アメリカの起業家たちに、「あなたが成功した、人生のきっかけは一体何でしたか」というアンケートをしたところ、多かった答えのベスト3は、「病気」「失恋」「会社の倒産」でした。つまり、彼らにとって、「病気」も「失恋」も「倒産」も、神様からのギフトだったのです。

私たちは困ったときに神社にお参りをします。

「どうかうまくいきますように」。でも、実際には逆のことが起きたりします。ピンチが訪れます。

望みをかなえるためのできごとは、一見「不幸」とか「ピンチ」という姿で私たちの目の前に現れます。

でも、そのピンチは、どうにかこうにか、それでも何とか乗り越えられるようになっていて、その向こうに、「思いもかけない結果」が待っています。

神様のギフトは裏切りません。

それは、おそらく、他人にはわからない。自分にしかわからないことだと思います。

私も、朝、目が覚めたときに、どうしてまた朝が来て、一日が始まってしまおうだろうと、毎日毎日ためいきばかりついていた日々がありました。

本当につらくて、こういう毎日は、いつになったら終わるんだろうと思っていました。でも、それもたぶん、神様からのギフトだったのかな。あの時期の思いは、今つらいことがあった時に、確実に私を支えてくれています。

進学や就職で苦しい思いをしているひと。

部活動で結果を出すことができなくて、悔しかったひと。

この先、コロナがどうなっていくだろうと、不安を抱えているひと。

その他、個人的に大変なことがあったひと、苦しんだひと、今も苦しんでいるひとに、特に言いたいです。

人生で、意味のないことはきっと起こりません。

失うことで、苦しんだことで、得るものが必ずあります。

思い通りにならないことがたくさんあるほど、気づくことや感じるものがたくさんあります。

つらい体験をしたひと、しているひとほど、人の痛みがわかるし、小さな幸せに気づくことが多くなります。

毎日きっと大変なことがあるだろう、皆さんへ。

元気でまた夏休み明けに会いましょう。